

◎今週の御言葉 「信じない者にならないで、信じる者になりなさい」(ネヘミヤ記2章1～18節、ヨハネの福音書20章19～31節) 「病気でもなさそうなのに、なぜ、そのように沈んだ顔をしているのか。きっと心に悲しみがあるに違いない。」(2) 「あなたの指をここに当てて、わたしの手を見なさい。手を伸ばして、わたしの脇腹に入れなさい。信じない者ではなく、信じる者になりなさい。」(27)

◎私たち一人ひとりの悲しみや苦しみの現実を知っていてくださるお方がおられるのです。一体誰でしょうか？

◎ネヘミヤ記前半の主題は「エルサレムの再建」です。ペルシャ帝国の王宮で献酌官として仕えていたネヘミヤは、ユダからきた者たちから、エルサレムの城壁は荒れ果て、ユダヤ人も悲惨な状態にあることを聞き、大いに嘆き、この状態を改良し、城壁を再建するために王に帰国を願った。そして王の許可を得たネヘミヤは早速エルサレムに帰り、城壁再建に着手する。内からも外からも、様々な困難に直面しながらも、52日間という驚くべき早さで城壁を完成させたのです。

◎復活された主イエス様が弟子たちにご自身を顕された時「平安があるように(シャローム)」と3度(19, 21, 26)挨拶をしておられます(ルカ10:5)。ここには深い意味があります。

◎「悪者どもには平安がない」(イザヤ48:22)。しかし、主イエス様は、「私たちのそむきの罪のために刺し通され、私たちの咎のために砕かれた。彼への懲らしめが私たちに平安をもたらしたのです(同53:5)。当時の弟子たちは「恐れ」の故に、戸を閉めて潜んでいた。その原因には外的要因(ユダヤ人に捕らえられ、訴えられないか)、内的要因(イエスを裏切ったことへの良心の呵責)があった。しかし、主イエス様はその弟子たちにご自身を顕わし、「平安があるように」と語りかけ、彼らを受け入れ、罪を赦されたのです。み傷を示された主イエス様を見て弟子たちは喜びに溢れたのです。

◎ご自分を捨てて逃げた弟子達に「父がわたしを遣わしたように、わたしもあなたがたを遣わします」と宣教の使命を与え、息を吹きかけ「聖霊を受けなさい」と言われたのです。またその場に居合わせなかったため、不信仰な告白をしたトマスにもご自身を顕されたのです。暗黒に閉ざされていたトマスに傷跡を示して「信じない者にならないで、信じる者になりなさい」との語りかけに対し、彼が「私の神。私の主」と告白して主を崇めた時、主は「見ずに信じる者は幸いです」と語られたのです。私達のため十字架と復活の出来事を通し救いの御業を完成して下さった主イエス様を崇めましょう。